

地歴・公民

「日本史A」	単位数	3単位	学科	普通科	学年・学級	3学年 日本史・地理選択
--------	-----	-----	----	-----	-------	--------------

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1. 近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち、日本を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させる。</p> <p>2. 歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。</p>
使用教科書・副教材等	東京書籍「日本史A 現代からの歴史」(日A011)

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだし、世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

2 学習指導計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	評価の観点				考查範囲	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)
				関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解		
第1学期	4	序章 私たちの時代 (1) グローバル化の時代 (2) 現在の日本	<p>1. 私たちの時代の学習を通して歴史への関心高めるとともに、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>2. 産業技術の発達がどのような時代背景の下でもたらされ、それが人々の生活にどのような影響をもたらしたかについて、世界史的視野から追究させる。</p> <p>3. 国際社会がどのようにして変化してきたかを政治的、経済的諸条件や世界的な動きと関連付けて追究させるとともに、日本の役割について考察させる。</p> <p>4. 地球的な規模の課題と、その中で日本が世界の平和と福祉の増進にどのような役割を果たすことができるかを考察させる。</p>	○	○	○	○	第1学期中間考查	<p>*全体に、特に「現代社会」の授業との関連性に留意する。</p> <p>*現代社会：公共事業・財政赤字等の内容との関連をはかる。</p> <p>*「ワークノート」p.6～11を活用。</p> <p>*「図説日本史」p.252 現代の生活文化、p.258 現代日本の課題②、p.250 政権再編と政策の転換、平成不況</p>

	5	第1章 国際環境の変化と明治維新 (1) 19世紀世界の動向と日本	1. 開国以後、明治維新を経て、近代日本が急速に形成された過程を国際的な動きと関連付けて追究させる。 2. 欧米列強によるアジア進出について、資本主義の発達を中心に考察させるとともに、アジア民衆の抵抗と欧米列強の日本への対応の変化を考察させる。 3. マニュファクチュアの展開が幕藩体制に与えた影響や天保期の情勢を、内政・外交の両面から考察させる。 4. 学問・思想の民衆化により農村に生まれた新しい動きについて考察させる。 5. 天保の改革を初めとして、藩政改革での成果の特徴や内容の意義について考察させる。	○	○	○	○	第1学期期末考査	*世界史：帝国主義の時代、欧米の近代社会成立についての内容との関連に留意する。 *「ワークノート」p. 12～16を活用。 *「図説日本史」p. 158 東アジアの情勢と列強の接近、p. 161 庶民教育
		(2) 開国と倒幕	1. アメリカが日本に対して開国要求を強化させた背景、ペリーの強硬な要求に対して日本がとった対応について理解させる。また、安政の五か国条約の特徴について考察させる。 2. 井伊直弼の大老就任以前の政治的対立と、井伊の横死が幕府政治へ与えた影響について考察させる。 3. 貿易が、社会や経済に与えた影響について考察させる。 4. 公武合体運動・尊王攘夷運動の経緯を考察させる。 5. 薩長同盟の経緯と英仏が幕末の政局に与えた影響を考察させる。また、討幕派と延命を画策する幕府側の動きについても考察させる。	○	○	○	○		*世界史：東アジアの政治変動との関連性に留意する。 *「ワークノート」p. 17～21を活用。 *「図説日本史」p. 170 アジアの情勢と日本の開国、p. 174 戊辰戦争と新政府の発足
	6	(3) 明治新政府の諸改革と社会の変化	1. 新政府の方針の特徴と中央集権体制が整備されていく過程を政治・経済の両面から理解させる。 2. 西洋文化の流入が、日本の社会生活に与えた影響について理解させる。	○	○	○	○		*「ワークノート」p. 22～26を活用。 *「図説日本史」p. 175 中央集権体制の確立、p. 182 教育制度の確立
		(4) 明治初期の外交と反政府運動	1. 明治初期に政府がとった対外政策と、国会開設要求や反政府運動の発生理由について考察させる。	○	○	○	○		*世界史：東アジアの政治変動との関連性に留意する。 *「ワークノート」p. 27～30を活用。 *「図説日本史」p. 183 明治初期の外交と琉球処分、p. 184 新政府への反乱
第1学期	7	第2章 近代国家の成立と国際関係の推移 (1) 自由民権運動の展開	1. 日本の国際社会における位置を踏まえ、その中で日本の諸問題について考察させるとともに、激動する国際情勢についての理解を深める。 2. アジアの動向の中から自由民権運動が目指したものは何であったのか、この運動がどのように発展し、衰退していったのかについて考察させる。 3. 近代産業の成立と発達、松方財政の影響について考察させる。	○	○	○	○	第1学期期末考査	*世界史：産業革命と資本主義の確立との関連性に留意する。 *「ワークノート」p. 31～33を活用。 *「図説日本史」p. 185～187 自由民権運動①②③
【課題・提出物等】 ・レポート、ワークノート、課題プリントなどを提出させる。									
【第1学期の評価方法】 ・考査評価（70%）、課題追究学習（20%）、課題プリント（10%）への取り組み状況などを総合的に評価。									

第2学期	9	(2) 立憲体制の成立	1. 明治憲法の成立過程と諸法典について、その内容について理解を深めさせる。 2. 初期議会はどのような過程で成立したかについて考察させる。 3. 条約改正の過程について理解を深めさせる。 4. 明治初期の日朝関係について考察させる。	○	○	○	○	第2学期中間考査	*世界史：朝鮮の開国との関連性に留意する。 *「ワークノート」p. 34～39を活用。 *「図説日本史」p. 188 大日本帝国憲法の制定, p. 189 内閣制度の確立と初期議会, p. 194 条約改正の実現, p. 195 朝鮮をめぐる情勢と日清戦争
		(3) 日清戦争と国際関係	1. 日清戦争の原因と経過・影響について考察させる。 2. 列強の中国分割と日英同盟の締結過程について考察させる。 3. 戦争後の資本主義の確立・政党の動向・社会問題の発生と農村の変化について考察させる。	○	○	○	○		*世界史：中国分割の進行との関連性に留意する。 *「ワークノート」p. 40～44を活用。 *「図説日本史」p. 195 朝鮮をめぐる情勢と日清戦争, p. 196 日清戦争後の政治, p. 191 産業革命の進展, p. 192 産業革命の完成, p. 193 社会運動の発生
	10	(4) 日露戦争前後の世界と日本	1. 日露戦争が国民にどのような影響を及ぼしたかについて理解させる。 2. 戦争後の資本主義の発達と社会運動への弾圧過程を考察させる。 3. 日本の大陸侵略過程を朝鮮・中国情勢の推移の中で考察させる。 4. 護憲運動とその後の政局の推移について考察させる。	○	○	○	○		*世界史：日露戦争・韓国併合との関連性に留意する。 *「ワークノート」p. 45～49を活用。 *「図説日本史」p. 197 列強の中国進出と日露戦争, p. 200～201 植民地支配のもとで, p. 208 第一次護憲運動と大正デモクラシー, p. 212 社会運動の高揚と関東大震災, p. 213 第二次護憲運動と治安維持法
第2学期	10	第3章 両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 (1) 帝国日本と第一次世界大戦	1. 第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結までの我が国の状況について、国際情勢と関連付けて考察させる。 2. 大戦中の日本の中国侵略が、欧米列強の反発を招いたこと、戦後の民族自決の高まりの中で、日本は中国・朝鮮で民族独立運動に直面したことを理解させる。 3. 大戦中の好景気によって、日本の資本主義が急速に発展し、その矛盾が米騒動となって現れたことを考察させる。 4. ロシア革命や米騒動などの影響を受けて様々な社会運動が台頭してきたこと、大戦後の日本経済の深刻な不況が、社会運動に質的転換と広がりをもたらしたことについて理解させる。	○	○	○	○	第2学期中間考査	*世界史：ヴェルサイユ体制・東アジアの独立運動との関連性に留意する。 *「ワークノート」p. 50～54を活用。 *「図説日本史」p. 209 第一次世界大戦と日本の参戦, p. 211 協調外交と抗日運動, p. 212 社会運動の高揚と関東大震災

	11	(2) 政党政治と大衆文化	1. 政党内閣の慣行が確立するまでの歴史的経過を理解させ、1930年代に政党内閣制が崩壊していった原因について考察させる。 2. ワシントン体制は、大戦中の日本の膨張主義的政策に厳しい枠をはめる体制であったこと、1920年代の日本外交が、基本的には新国際秩序の下での協調外交であったことを理解させる。 3. 大正デモクラシーの思潮を背景として、学問・思想・教育の諸分野で新時代に対応する業績が誕生したことを理解させる。 4. 資本主義の発達、教育の普及、中産階級や知識人層の増加といった経済的社会的背景の中から新しい文芸の動きが生まれ、大衆文化が登場したことを理解させる。	○	○	○	○	第2学期期末考査	*世界史：ワシントン体制との関連に留意する。 *「ワークノート」p. 55～58を活用。 *「図説日本史」p. 208 大正デモクラシーの進展，p. 211 協調外交と抗日運動，p. 212 関東大震災，p. 213 第二次護憲運動と治安維持法，p. 214 新しい都市生活，p. 215・218 大正・昭和前期の文化<科学・文学><大衆文化>，p. 219 大正の内閣
		(3) 軍国日本への道	1. 金融恐慌や昭和恐慌によって日本経済は深刻な不況に陥り、労働・小作争議が激化したことを理解させる。また、昭和恐慌下の農村の悲惨な実態にも目を向けさせる。 2. 昭和恐慌が深刻化していく中で、中国で激しい民族運動に直面した我が国は、内外ともに政策の行き詰まりを見せ、軍部・右翼の台頭による国家改造や軍拡・大陸侵略を目指す動きが起こったことを理解させる。 3. 政府の労働運動・社会運動に対する徹底した弾圧と、満州事変以降、弾圧の対象が自由主義や民主主義的思想・学問にも及び、国家主義思想が次第に台頭してきたことについて考察させる。	○	○	○	○		*世界史：世界恐慌との関連に留意する。 *世界史：ファシズム・反ファシズムとの関連性に留意する。 *「ワークノート」p. 59～63を活用。 *「図説日本史」p. 220 戦後恐慌から金融恐慌へ，p. 221 世界恐慌と昭和恐慌，p. 223 満州事変と関東軍，p. 225 軍部・右翼の台頭，p. 227 日中戦争の始まり
	12	(4) 太平洋戦争と日本	1. 日独伊三国同盟の締結により、日米間の対立が深刻化し、開戦に至った経緯を考察させる。 2. 「大東亜共栄圏」の建設を唱えた太平洋戦争は、中国・朝鮮・東南アジア民衆に対する搾取と抑圧のうえに展開されたこと、抗日運動が戦後の民族解放と独立につながったことについて理解させる。 3. 戦争の長期化と戦局の悪化によって、国民に対する戦争動員が強化され、軍需優先の政策が国民生活を破壊していったことについて理解させる。	○	○	○	○		*世界史：日独伊三国同盟の対外侵略、ファシズム化との関連に留意する。 *「ワークノート」p. 64～69を活用。 *「図説日本史」p. 228 アジア太平洋戦争の始まり，p. 234 加害者としての日本
【課題・提出物等】 ・第1学期に準ずる。									
【第2学期の評価方法】 ・第1学期に準ずる（考査評価（70%）、課題追究学習（20%）、課題プリント（10%）への取り組み状況などを総合的に評価）。									
第3学期	1	第4章 現代世界と日本 (1) 現代世界の開幕と日本の戦後改革	1. 第二次世界大戦後の民主化と復興、国際社会への復帰、経済発展と現代の日本について、世界の動向と関連付けて考察させるとともに、我が国の課題と役割について認識させる。 2. 沖縄戦・原爆投下により多数の犠牲者を生み、ポツダム宣言受諾時の政府の関心が国体護持であったことを考察させる。 3. 大戦後の世界情勢の変化や連合国による占領政策の目標、戦後改革について理解させる。 4. 日本国憲法の制定過程と基本的性格や諸法律改正の意味について理解させる。	○	○	○	○	学年末考査	*現代社会：国際平和と人類の課題との関連に留意する。 *「ワークノート」p. 70～74を活用。 *「図説日本史」p. 232 沖縄戦と原爆の投下，p. 240 日本国憲法の制定と教育改革

	(2) 日本の再建と復興への道	1. 敗戦後の生活危機、労働・農民運動の高揚、GHQの労働運動の奨励、経済の再建について理解させる。 2. 学問の自由、歴史・社会の科学的追究と皇国史観の一扫など、戦後の文化形成について理解させる。	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> * 現代社会：日本経済の変遷などの内容との関連に留意する。 * 「ワークノート」p. 75～77 を活用。 * 「図説日本史」p. 241 戦後の国民生活、p. 242 経済の自立と特需景気
2	(3) 米ソ二極構造の世界と国内の再編	1. 朝鮮戦争と日本との関わりについて理解させる。冷戦下で対日講和が単独でなされ、日米安全保障条約との抱き合わせとなり、対米従属が決定的となったことについて考察させる。 2. 独立後の政府の戦前型支配への復帰志向と民衆運動の高揚、安保闘争の挫折と新安保条約によって、日本がアメリカの極東戦略に深く組み入れられたことについて理解させる。	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> * 世界史・現代社会：東西冷戦体制との関連に留意する。 * 日本の安全保障と防衛の関連に留意する。 * 「ワークノート」p. 78～80 を活用。 * 「図説日本史」p. 244 平和運動と安保反対闘争
	(4) 高度経済成長の時代	1. 高度経済成長とそれに伴う新しい外交関係、国民生活の変化について考察させる。 2. 経済発展に伴って表面化した公害などの社会問題、それに対する社会運動について理解させる。	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> * 現代社会・政治経済：高度経済成長との関連に留意する。 * 「ワークノート」p. 81～83 を活用。 * 「図説日本史」p. 246 高度経済成長の時代、p. 247 公害の発生と国民生活
3	(5) 低成長から経済大国へ	1. 地球的規模の課題と日本の役割について考察させる。 2. 冷戦の終結と激動する国際情勢について理解を深めさせる。 3. 国際的経済秩序の転換の中から、日本経済のあり方を理解させる。	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> * 現代社会：国際協力と日本の役割の内容との関連に留意する。 * 世界史：冷戦の終結、多極化する世界の現況との関連に留意する。 * 「ワークノート」p. 84～87 を活用。 * 「図説日本史」p. 246 高度経済成長の時代、p. 249 冷戦構造と55年体制の終焉
【課題・提出物等】 ・第1学期に準ずる。							
【第3学期の評価方法】 ・第1学期に準ずる（考査評価（70%）、課題追究学習（20%）、課題プリント（10%）への取り組み状況などを総合的に評価）。							
【年間の学習状況の評価方法】 1. 各学期の定期考査評価 2. 課題追究学習—ポートフォリオ評価 3. 課題プリント—作業完成度の評価 4. レポート発表—内容の充実度等の評価							

2) 評価規準

学習内容 (教科書の構成)	評価の観点			
	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
序章 私たちの時代 (1)グローバル化の時代 (2)現在の日本	・「コンビニから現代をみると」などのように、身近な生活文化や地域社会の変化などに関わる主題を設定し追究する学習を通して、歴史への関心を高め、多様な学習方法によって、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	・近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から、「地域紛争の激化とナショナリズム」等のような主題を設定し追究する学習を通して、課題を見だし、世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて、公正に判断している。	・身近な生活文化や地域社会の変化に関わる文献・絵画・映像などの諸資料や聞き取り調査による様々な情報を収集する中で、有用な情報を選択して利用することや、地域の文化遺産を活用することを通して、歴史的事象を探究する方法を身に付けている。	・近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄と関連させて、歴史を考察する基本的な方法を理解している。
第1章 国際環境の変化と明治維新 (1)19世紀世界の動向と日本	・幕藩体制動揺期の世界の動向と国内情勢に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・幕藩体制の動揺期の内外の情勢から、異国船打払令の問題点などの課題を見だし、産業・学問・思想・教育における近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・幕藩体制動揺期の内外の情勢に関する文献・絵画・地図・統計・グラフ等の資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、考察した過程や結果を適切に表現している。	・幕藩体制動揺期の内外の情勢についての基本的な事項を欧米諸国のアジア進出と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
(2)開国と倒幕	・アメリカの開国要求・倒幕運動と国際情勢など内外の情勢に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・幕末の国際・国内情勢から課題を見だし、幕末の物価指数と貿易構造など産業や思想の変化の中から近代の萌芽を汲み取ることができるよう、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・幕末の国際・国内情勢に関する文献・地図・統計などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することによって、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・幕末の国際・国内情勢について、基本的な事項をアメリカ・ロシアのアジア進出に代表されるように世界史的視点から探求し、その知識を身に付けている。
(3)明治新政府の諸改革と社会の変化	・版籍奉還・廃藩置県・地租改正などの諸改革の遂行によって、近代国家の形成に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・太陽暦採用などの習俗の変化や文明開化に見られる欧米文化導入と、明治政府による諸制度の改革に伴う社会や文化の変化とを関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・近代国家の形成に関する文献・地図・統計などの諸資料を収集して有用な情報を選択して活用することによって、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・近代国家の形成について、交通・通信の発達など社会生活の変化といった基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
(4)明治初期の外交と反政府運動	・我が国の対外政策の推移と反政府運動の動きなどに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・我が国の対外政策の推移を対清・対朝鮮・対露などとの関係から課題を見だし、アジア近隣諸国との関係の変化を多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・我が国の対外政策の推移や反政府運動の動きに関する文献・新聞・絵画・写真・地図などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・我が国の対外政策の推移や反政府運動の動きなどに関する基本的な事柄について、アジア諸国など近隣諸国との関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

第2章 近代国家の成立と国際関係の推移 (1)自由民権運動の展開	・自由民権運動の展開から松方財政・近代産業の発達過程について課題意識を高め、意欲的に追究している。	・アジアの動向が我が国の自由民権運動を初めとする近代国家建設に対してどのような影響を及ぼすことになったのか、課題を見いだし多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	・自由民権運動・近代産業の発達などに関する文献・絵画・統計などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を身に付け、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・自由民権運動の展開についての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
(2)立憲体制の成立	・アジア諸国を初めとする国際環境の中で、我が国が条約改正交渉に着手しつつ、立憲体制の成立をみるようになった点に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・我が国の対外政策の基本方針の一つは条約改正交渉成功であったが、そのような事例から課題を見いだし、明治政府による憲法・諸法典の編纂などの諸制度の改革に伴う社会・政治の変化と関連付けて多面的・多角的に考察・判断している。	・立憲体制の整備・条約改正の経過などに関して、文献・新聞・絵画・写真・地図などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・立憲体制の整備など近代国家の形成についての基本的な事柄を、アジア諸国を初めとする国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
(3)日清戦争と国際関係	・我が国の対外政策の推移を日清戦争・三国干渉から資本主義の確立・戦後の政治や社会・諸思潮に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・我が国の対外政策の推移を日清戦争・三国干渉から資本主義の確立・戦後の政治や社会・諸思潮の変化について多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・我が国の対外政策の推移などに関する文献・新聞・絵画・写真・統計などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・我が国の対外政策の推移に関し、日清戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係と関連付けて理解するとともに、資本主義確立期の社会・諸思潮に関して、その知識を身に付けている。
(4)日露戦争前後の世界と日本	・我が国の対外政策の過程を日露戦争前後の国際関係から、資本主義発達と社会運動の展開を経て護憲運動に至るまでの状況に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・日露戦争前後の欧米諸国や近隣諸国との関係の変化及び資本主義発達と社会運動の展開・護憲運動・近代文化の展開などについて、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・日露戦争・資本主義の発達・社会運動・護憲運動・近代文化の展開についての文献・写真・新聞・映像・絵画などの有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・我が国の対外政策の推移に関し、日露戦争・資本主義の発達・社会運動などについて国際情勢と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
第3章 両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 (1)帝国日本と第一次世界大戦	・第一次世界大戦前後から大戦終結に至るまでの我が国の状況に対する関心と課題意識を高め、多様な学習方法を通して意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	・第一次世界大戦前後から大戦終結までの我が国の状況から課題を見いだし、国際情勢と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・第一次世界大戦前後から大戦終結までの我が国の状況に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することや、博物館や文化遺産を活用することなどを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・第一次世界大戦前後から大戦終結までの我が国の状況についての基本的な事柄を国際情勢と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
(2)政党政治と大衆文化	・政党政治の推移と大衆文化の形成に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・政党政治の推移と大衆文化の形成から課題を見いだし、政党の役割と社会的な基盤、学問・文化の進展と教育の普及と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて	・政党政治の推移と大衆文化の形成に関する文献・新聞・絵画・地図・写真・映像・統計・グラフなどの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究	・政党政治の推移と大衆文化の形成についての基本的な事柄を国際情勢と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

		公正に判断している。	する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	
(3)軍国日本への道	・金融恐慌・昭和恐慌から軍部の台頭による軍国主義国家の形成までとその後の推移に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・金融恐慌・昭和恐慌から軍部の台頭による軍国主義国家の形成までとその後の推移の中から課題を見だし、国際情勢と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・金融恐慌・昭和恐慌から軍部の台頭による軍国主義国家の形成までとその後の推移に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することなどを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・金融恐慌・昭和恐慌から軍部の台頭による軍国主義国家の形成までとその後の推移についての基本的な事柄を国際情勢と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
(4)太平洋戦争と日本	・太平洋戦争前後から大日本帝国の崩壊過程までの内外情勢の変化に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・太平洋戦争から大日本帝国の崩壊過程までの内外情勢の変化から課題を見だし、諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の政治・経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・太平洋戦争から大日本帝国の崩壊過程までの内外情勢の変化に関する諸資料や聞き取り調査による様々な情報を収集して、有用な情報を活用することなどを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・太平洋戦争から大日本帝国の崩壊過程までの内外情勢の変化についての基本的な事柄を、諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、アジア近隣諸国との関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
第4章 現代世界と日本 (1)現代世界の開幕と日本の戦後改革	・敗戦と占領政策・大戦後の世界と冷戦の始まり・アジア諸国の独立と日本・戦後改革の推移など新しい外交関係確立に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会で主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	・敗戦と占領政策・大戦後の世界と冷戦の始まり・アジア諸国の独立と日本・戦後改革の推移など新しい外交関係確立の中から課題を見だし、国際関係の展開と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・敗戦と占領政策・大戦後の世界と冷戦の始まり・アジア諸国の独立と日本・戦後改革の推移など新しい外交関係確立に関する諸資料や、聞き取り調査による様々な情報を収集し、有用な情報を選択して、活用することなどを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程を適切に表現している。	・敗戦と占領政策・大戦後の世界と冷戦の始まり・アジア諸国の独立と日本・戦後改革の推移など新しい外交関係確立について基本的な事柄を世界の動向と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
(2)日本の再建と復興への道	・生活の再建・経済再建・新しい文化に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	・生活の再建・経済再建・新しい文化などから課題を見だし、生活意識や価値観の変化と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・生活の再建・経済再建・新しい文化に関する文献・新聞・絵画・地図・写真・映像・統計・グラフなどの諸資料や、聞き取り調査などによる様々な情報を収集し、有用な情報を選択して活用することなどを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を踏まえて公正に判断している。	・生活の再建・経済再建・新しい文化についての基本的な事柄を世界の動向と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
(3)米ソ二極構造の世界と国内の再編	・米ソ二極構造の世界と国内の再編に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、	・米ソ二極構造の世界と国内の再編の中から課題を見だし、国際社会の変化を踏まえて、多面	・米ソ二極構造の世界と国内の再編に関する文献・新聞・絵画・写真などの諸資料による様々な	・米ソ二極構造の世界と国内の再編についての基本的な事柄を世界の動向と関連付けて総合的に理解し、そ

	国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	的・多角的に考察し、公正に判断している。	情報を収集して、有用な情報を選択して活用することなどを通して、歴史的な事象を追跡する方法を身に付けるとともに、追跡し考察した過程や結果を適切に表現している。	の知識を身に付けている。
(4)高度経済成長の時代	・高度経済成長の時代に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追跡するとともに、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	・高度経済成長の時代の中から課題を見だし、国際社会の変化を踏まえて、生活意識や価値観の変化と関連付けて考察し、公正に判断している。	・高度経済成長の時代に関する文献・新聞・映像・統計などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することなどを通して、歴史的な事象を追跡する方法を身に付けるとともに、追跡し考察した過程や結果を適切に表現している。	・高度経済成長の時代に関する基本的な事柄を世界の動向と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
(5)低成長から経済大国へ	・低成長から経済大国に発展する過程の我が国の課題と役割に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追跡するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	・低成長から経済大国に発展する過程の課題を見だし、国際貢献の拡大などと関連付けて多面的・多角的に考察し、日本の役割を認識するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・低成長から経済大国に発展する過程に関して、文献・新聞・映像・写真・統計などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することなどを通して、歴史的な事象を追跡する方法を身に付けるとともに、追跡し考察した過程や結果を表現している。	・低成長から経済大国に発展する推移について、基本的な事柄を我が国の国際貢献の拡大などと関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。